

美術学部工芸科

養成人材およびカリキュラム編成の方針

工芸科は、基本を学び、現代の多様化する社会における価値観や技術を吸収し、さらなる発展をなし得る能力を身につけたアーティストを養成します。そのためカリキュラムは、工房制作を中心とした少人数制による個人指導のもと、基本的な知識・技術を養い、実技修練と創造性の開発を図るための編成となっています。また、グローバル人材育成のために、国際交流や地域連携にも力を入れており、工芸科としての特色を活かした研究活動や社会活動に取り組むことができる体制を取っています。

求める入学者像

- ・自然に対する観察力を有し基礎的な造形能力（デッサン・色彩感覚・立体感覚）のある人
- ・工芸素材に関心があり、工芸及び美術作品やデザインに興味のある人
- ・手仕事による制作に興味があり、専門家（作家、起業家、デザイナー）を目指している人
- ・伝統と現代双方に関心を持ち、物事を客観的に捉えられる人
- ・工芸教育に理解を持ち、社会や地域に貢献することに意欲のある人
- ・日本文化や他国の文化に関心があり、グローバルな視野を求めている人

卒業認定・学位授与の方針

最終年次の「卒業制作」を含めた所定の単位を修得した学生を卒業と認め、学士の学位を授与する。

カリキュラム構成

1年次は、基礎的な表現力と造形感覚を習得するため、工芸科各分野の専門技法と絵画科、彫刻科教員による日本画や素描、塑造という美術全般にわたる授業を行います。

2年次より7分野に分かれて専門的な造形表現や知識を習得していきます。3年次には、複合的な学生の育成を目指し、分野の領域を跨いだ工芸総合演習を実施します。

4年次には卒業制作に取り組み、学部での成果を発表します。

教育目標

- ①伝統技術を基盤とした専門技術・知識の取得。
- ②現代の多様化する社会の価値観の理解。
- ③素材と技術から発展していく独自の表現の創造。
- ④国内外の文化への理解と交流の取り組み。

年次	科目		ディプロマポリシー	教育目標
1年次	必修科目	基礎実技Ⅰ、Ⅱ	1,2,5	①,②,③,④
2~4年次		技法演習Ⅰ-Ⅰ~Ⅲ-Ⅱ		
3年次		古美術研究		
3年次		工芸総合演習		
4年次		卒業制作		
1~4年次	指定科目	工芸制作論Ⅰ、Ⅱ 工芸理論、日本工芸史概説 から選択必修 各分野開設の指定科目から 選択必修	2	①,③,④
1~4年次	選択科目	共通科目	1,2,3,4	②,④